

『心を込めてお手伝い』

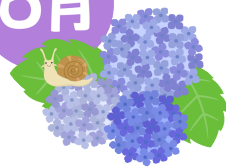


ハウスマーケット

だより

House Market

6月



号



早くも梅雨入りとなり、あじさいの花が色鮮やかになりました

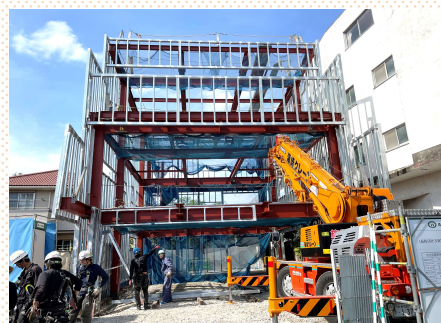
木々の緑も深くなり、紫陽花の花もちらほら見られるようになりました。今年は例年より早い梅雨入りとなり、朝昼の気温差が激しい時期でもあります。皆様体調を崩されないようお気を付け下さい。早くも2023年も下半期に突入します。ハウスマーケット社員一同、これからも迅速、丁寧に対応させて頂きたいと思ひます！何か御用命がございましたらいつでもお声かけ下さいませ。



～HOME PLAZA工事施工中のご紹介～

某ビル新築工事

前回ご紹介させて頂きました工事現場の第2弾！4月に基礎工事を終え、いよいよ鉄骨工事に入りました！大きなクレーンで鉄骨を一つ一つ丁寧に組み上げていく職人さんの高度な技術は本当に素晴らしいです！迫力満点でした。次月号ではどこまで進んでいるのでしょうか！また楽しみにしてくださいね(〇〇)！



“観測史上最大規模のエルニーニョ”の恐れなのに暑い夏！？

～気象庁が3ヶ月予報発表～

◎気象庁が3ヶ月予報を発表 (2023/5/23)

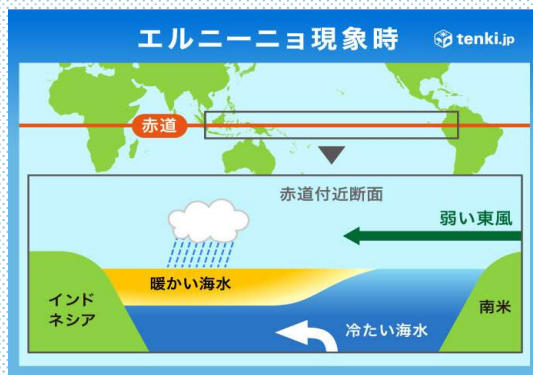
今年は夏までにエルニーニョ現象が発生し、観測史上最大規模になる恐れがあるとされています。エルニーニョ現象発生時は日本では冷夏になることが多いのですが、気象庁は反対に「この夏は全国的に気温が平年並みが高い」「観測史上最大となった1997年のレベルに近づいている」とする予報を発表しました。理由については、パルー沖で海面の水温が低くなる「ラニーニャ現象」が終息して間もないことなどを挙げています。ラニーニャが終息してエルニーニョが始まるのはこの40年間は起きていなかったそうです。6月～8月の天候について気象庁は、「全国的に気温は平年並みが高く、降水量は平年並みで、全般に高温となる傾向が予測されるので、十分な熱中症対策をお願いしたい」と呼びかけています。

エルニーニョ/ラニーニャ現象の発生確率 (予測期間：2023年3月～2023年9月)

年	月	平均期間	エルニーニョ現象	平常	ラニーニャ現象
2023年	3月	2023年1月～2023年5月	100		
	4月	2023年2月～2023年6月	40	60	
	5月	2023年3月～2023年7月	70	30	
	6月	2023年4月～2023年8月	80	20	
	7月	2023年5月～2023年9月	80	20	
	8月	2023年6月～2023年10月	80	20	
	9月	2023年7月～2023年11月	80	20	

エルニーニョ現象 平常 ラニーニャ現象

◎エルニーニョ現象とは？



本来、「エルニーニョ現象」発生時の日本は、冷夏や暖冬になりやすいと言われています。発生するのは、太平洋赤道域です。このあたりは貿易風と呼ばれる東風が吹いているため、通常、暖かい海水は西側のインドネシア付近に吹き寄せられる一方、東側の南米沖では、海の深い所から冷たい海水が湧き上がっています。ただ何らかの原因で東風が弱まると、西側の暖かい海水が東側へ広がるとともに、東側に湧き上がる冷たい海水の勢いが弱まり、南米沖の海面水温が通常より高くなります。このように、太平洋赤道域の日付変更線付近から南米沿岸にかけて、海面水温が平年より高くなり、その状態が1年程度続く現象を「エルニーニョ現象」と呼びます。「エルニーニョ現象」は海で起こる現象ですが、発生すると大気にも影響を及ぼし、世界各地で気圧配置などがいつもとは違った状態になります。

◎6～8月の平均気温・降水量予報

		平均気温 (3か月)		降水量 (3か月)	
北日本	日本海側	低30 並30 高40%	ほぼ平年並みの見込み	少30 並30 多40%	ほぼ平年並みの見込み
	太平洋側	低30 並30 高40%	ほぼ平年並みの見込み	少30 並30 多40%	ほぼ平年並みの見込み
東日本	日本海側	低20 並40 高40%	平年並みが高い見込み	少30 並30 多40%	ほぼ平年並みの見込み
	太平洋側	低20 並40 高40%	平年並みが高い見込み	少30 並30 多40%	ほぼ平年並みの見込み
西日本	日本海側	低20 並40 高40%	平年並みが高い見込み	少30 並30 多40%	ほぼ平年並みの見込み
	太平洋側	低20 並40 高40%	平年並みが高い見込み	少30 並30 多40%	ほぼ平年並みの見込み
沖縄・奄美		低20 並30 高50%	高い見込み	少30 並40 多30%	ほぼ平年並みの見込み

		平均気温 (3か月)	降水量 (3か月)
北日本	数値は予想される出現確率 (%) です	低い確率 50% 以上 40% 50% 高い確率 50% 以上	低い確率 50% 以上 40% 50% 高い確率 50% 以上
		低い確率 50% 以上 40% 50% 高い確率 50% 以上	低い確率 50% 以上 40% 50% 高い確率 50% 以上

木造建築費の大幅アップで火災保険金額の見直しも必須に

2021年3月頃から表面化してきたウッドショックによる木材価格の急騰や、人件費のアップによる建築価格の上昇は火災保険の金額にも影響してくる。その対応はどうなっているのかをレポートする。

◎木造住宅の工事原価が大幅上昇中

◎火災保険契約者の8割近くが十分な補償を受けられない状態

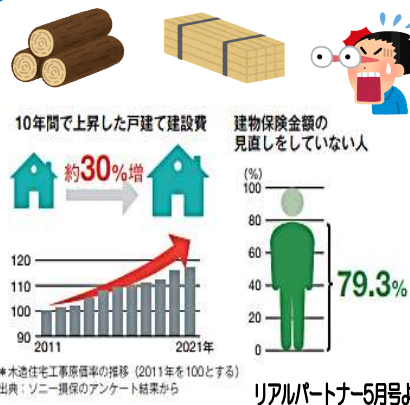
現在、世界的に広まっているインフレの原因は、コロナ禍で世界の主要都市や港でロックダウンが行われ、経済活動の停滞とともに各種グローバルサプライチェーンが滞り、世界的な供給不足が生じたことが主な要因といえるだろう。その影響はさまざまな分野に及んで、世界的なインフレを引き起こしているが、その嚆矢の一つともいえるのが、2021年3月頃から表面化してきた「ウッドショック」と呼ばれる木材価格の急騰だ。

火災によって建物に損害が生じたとき、保険でどこまでカバーされるのか。ソニー損保が2021年12月の上記データをもとに、戸建てで火災保険を契約して「火災保険の建物補償と再調達価格のギャップ調査」を行ったところ、万が一の際、十分な補償を受けられない可能性のある人が79.3%にも達したことがわかった。例えば、現在加入している火災保険や共済について、「補償金額や補償内容を変更せず、更新・継続している」と答えた人の割合は、全体の

木価価格やその他の建設資材の価格上昇は建設費に影響を及ぼす建設物価調査会総合研究所が2022年1月に公表した「建設物価建築費指数2021年12月分」によると住宅木造の工事原価は前月比で4.5%増であり前年同月比では13%の上昇となった。2011年を100ポイントとした工事原価は2021年12月時点で131.2ポイントだった。

工事原価の大幅な上昇が、新築時のコスト上昇として意識されることは当然だが、実は傘保険で必要とされる保証金額にも大きな影響を及ぼすことにも注意が必要だ。

67.4%を占めている。しかも「過去10年間で約30%建築費が上昇していることを知らなかった」人が68.5%を占めた。かつ「建築費が上昇しているにも関わらず、建物金額の見直しをしていない」人は79.3%もいることが判明している。とはいえ、建物に及ぶリスクに対して多くの人が無関心というわけではない。火災保険の加入先や契約内容を変更した人のうち、49.5%の人が新たに地震保険に加入したという数字も出ている。近年、増えている自然災害に対する危機感が、この数字に表れているのは事実だ。しかし、こうした自然災害や火災などによって



早いもので、2023年も下半期に突入します。上半期は、WBCの日本優勝！感動の熱い戦いが印象的でした。下半期の、元気になるイベントをご紹介します！

8/19(十)~8/27(日)

世界陸上競技選手権

大分 ホバークラフト

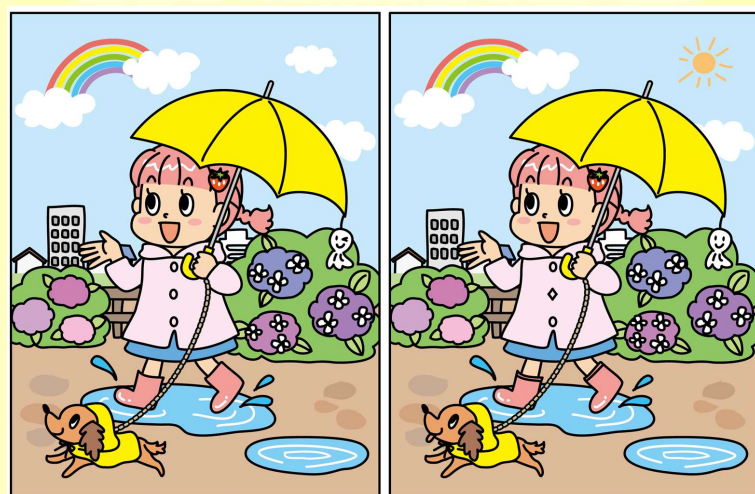
2023年12月再開就航予定

大分空港と大分市内を海上で結ぶ、ホバークラフトが再開予定！「宇宙湾」をコンセプトとしたデザインだそうです。

テーマ：梅雨

★ ヒント ★		
あめ	あじ い	かさ
てん よほう	はな ようぶ	なが つ
にじ	るてうぼうず	か る
み たまり	せんた もの	かたつ り

左右の絵には違いが7つあります。探して○で囲んでください



これから2ヶ月弱は梅雨の時期が続き、あけましておめでとうございますと言ったのも束の間、気づいたら早くも前半を終えようとしておりビックリです(* *)
今年の夏は、上記の記事でもお伝えしましたように例年よりの猛暑！と予報されておりますので、夏の酷暑にばてないよう、今から体力作りに励みましょう！
下半期はスポーツ観戦に忙しくなりそうですね♪がんばれニッポン(〇)／

編集部：湯浅

編集部：湯浅